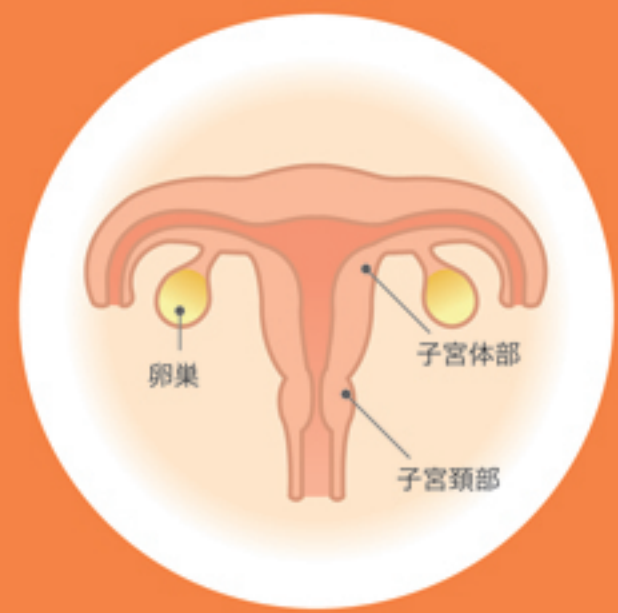


子宮がん検診



20歳を過ぎたら検診を受けましょう！
若年者に頸部がんが増えています！

20歳以上の方は、2年に1回は検診を受けましょう！

一次検診 (スクリーニング検査)

問診

婦人科系の既往歴などについておたずねします。

内診

腔内に指を入れ、下腹部の上を軽く圧迫しながら子宮、卵巣、子宮近辺を触診します。

細胞診

子宮頸部の細胞を専用の柔らかいヘラなどで擦り採る検査です。痛みを感じることはほとんどありません。細胞診の結果は細胞の形状により分類されます。

二次検診 (精密検査)

コルポスコープ

子宮腔部を拡大して観察する拡大鏡です。これによって、より細かい病変を観察します。

組織検査

異常のある部分の組織の一部を採って、がんかどうか、さらにがんの進行度をみます。

*精密検査後、さらに経過観察となる場合があります。

こんな症状にご注意

- ★初期の子宮頸部がんでは全く症状のないことが普通です。
- ★がんが少し進行すると…月経時以外の出血や、性交時の出血、おりものの変化(臭い、量、性状)として現れてきます。

必ず子宮がん検診を受けましょう！



子宮頸部がん Q & A

Q 妊娠していても検査は受けられますか？

A 検査は受けることができます。妊婦健診時にかかりつけの産婦人科で子宮頸部がん検診も行なうとよいでしょう。もし、がんが発見されても初期の場合であれば、適切な対応を行なうことで妊娠を継続することが可能です。

Q 検診をうける時期はいつがいいですか？

A 月経終了後1週間から次の月経までの間に受けるのが望ましいでしょう。正確な判定を受けるには月経時や月経直後の検診は避けたほうがよいでしょう。また、検診前日と検診当日の性交は避けてください。

子宮体部がん

子宮体部がんは主に50歳～60歳代に多く見られますが、最近では若年者も増加しています。月経以外の不正性器出血(特に閉経後の持続する少量出血や閉経前後の不正出血)や、おりもの、排尿痛又は排尿困難、性交時痛、下腹部痛などが現れてくる場合があります。このような症状がある人は、医療機関で受診しましょう。